

グローバル約14万人の従業員が 安全・快適・迅速に クラウドサービスを活用できる ゼロトラストのセキュリティ対策を実現

NTT DATA
NTT DATA Corporation<https://www.nttdata.com/jp/ja/>

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ (略称 NTTデータ)

住所：東京都江東区豊洲3-3-3 豊洲センタービル

創業：1988年5月23日

従業員数：139,700名 (グループ全体/2021年3月末現在)

事業内容：システムインテグレーション事業、
ネットワークシステムサービス事業、
その他これらに関する一切の事業

導入ソリューション：ZIA (Zscaler Internet Access)

ZPA (Zscaler Private Access)

NTTデータは、世界55カ国・地域の208都市に拠点を展開するグローバル企業だ。そんな同社だが、組織の成長に伴い、グローバル全体でセキュリティ基盤を統一するのが困難になり、地域ごとのセキュリティレベルにばらつきが生じ始めていた。一方で、テレワークや各種クラウドサービスの利用も急速に拡大。これらの課題を解決するために採用したのが、ゼットスケラーのソリューションだ。これにより、クラウドセキュリティプラットフォームを構築し、従業員に対して安全かつ快適にクラウドサービスを利用できる環境を提供するとともに、強力なグローバルセキュリティガバナンスを実現した。

急速なグローバル化により 各拠点のセキュリティレベルにばらつきが生まれる

NTTデータでは現在、事業を通じた社会課題の解決をテーマに掲げ、「Smarter Society」を実現しようとしている。生活者と企業、行政の互いの信頼に基づいて生活者からデータ提供を受け、企業・行政によるサービスへと反映する。この循環が創り出す生活者のウェルビーイングを実現する社会がSmarter Societyだ。企業と行政は業界を超えて連携し、サステナブルな社会のあり方をシミュレーションすることで、生活者とともに社会システムを変革し、豊かな社会へと発展させていく。

ただ、一方でNTTデータはひとつの課題に直面していた。

1988年にNTTから分社化した当時のNTTデータは、日本国内のみで活動するドメスティックなSI企業だった。しかしその後、積極的なM&Aを進めて会社の規模や活動地域を拡大。現在では55カ国・地域の208都市に拠点を展開し、国内外に約14万人の従業員を擁するグローバル企業となった。なお、現在では国外における従業員の比率は78%にまで増加している。

こうした急速なグローバル化の中で、セキュリティの問題が浮上してきたのである。

NTTデータ 技術革新統括本部 システム技術本部 セキュリティ技術部 サイバーセキュリティ統括部 ソリューション担当 課長代理 青木 聡氏は、「M&Aによって新たにNTTデータグループに加わった企業をグローバルネットワークでつなぎ、連携しながらビジネスを推進しています。とはいえ短期間のうちにセキュリティ基盤まで統一することは難しく、どうしても対策レベルにばらつきが生じてしまいます。万が一、セキュリティが脆弱な拠点がサイバー攻撃に狙われた場合、グローバル全体が脅威にさらされてしまうおそれがありました」と語る。

“ゼットスケラーのおかげで、クラウドサービス導入の申請期間短縮や現場へのFAT端末の配布など、いままで当社が実現しなかった取り組みを安心して実施できるようになりました。また、従業員がセキュリティやガバナンスを気にせず、安全に使えるようになったのも大きな導入効果です”

株式会社NTTデータ
技術革新統括本部 システム技術本部
セキュリティ技術部
サイバーセキュリティ統括部
コンサルティング担当
課長
橋本 卓哉 氏



株式会社NTTデータ
技術革新統括本部 システム技術本部
セキュリティ技術部
サイバーセキュリティ統括部
コンサルティング担当
課長
橋本 卓哉 氏



株式会社NTTデータ
技術革新統括本部 システム技術本部
セキュリティ技術部
サイバーセキュリティ統括部
ソリューション担当
課長代理
青木 聡 氏

ルールではなく「仕組み」によってセキュリティを担保する体制へ

この課題を解決するためNTTデータが注目したのが、「ゼロトラスト」のアプローチである。これまでNTTデータでは、社内ネットワークと外部ネットワークとの境目にファイアウォールを設置して脅威の侵入から守る、いわゆる境界防御を中心としたセキュリティ対策を行ってきた。だが、昨今の高度化・巧妙化したサイバー攻撃を完全にブロックすることが困難に。また前述したように、NTTデータグループの企業間でも、セキュリティレベルには少なからず格差が生じることになる。

こうしたことから、境界内部に脅威が侵入することを前提としたセキュリティ対策が急務となり、アクセスごとにユーザー認証を行いデバイスの安全性を確認するゼロトラストのアーキテクチャーを採用すべきだと判断した。

NTTデータがゼロトラストのセキュリティ対策を求めたことには、ほかにも理由がある。それはクラウドサービスの利用拡大だ。NTTデータ 技術革新統括本部 システム技術本部 セキュリティ技術部 サイバーセキュリティ統括部 コンサルティング担当 課長 橋本 卓哉氏は、「NTTデータグループではコロナ禍以前から働き方変革を進めており、グローバル全域で多くの従業員が在宅勤務を含めたテレワークを行っています」と話す。こうしたリモート環境で主に使われ、拡大してきたのがクラウドサービスなのだ。

もとより境界防御の外側で運用されているこれらのクラウドサービスに対して、従業員がいつでも、どこからでも、どんなデバイスを使っても、安全にアクセスできる仕組みを提供する必要が出てきた。

実はこれまでNTTデータではクラウドサービスの利用に際して、非常に細かくプロセスが設定されており、申請から利用開始までに膨大な時間がかかっていたという。具体的には、使いたいクラウドサービス1つひとつについて期間や理由を添えて申請し、許可を取る必要があり、許可を得られるまでに調整が必要であった。

「こうした厳格なルールで従業員の行動を縛るのではなく、仕組みによってセキュリティを守る体制に転換し、日々進化しているさまざまなクラウドサービスを、より便利に使える環境を提供したいと考えました」と橋本氏は強調する。

ゼットスケーラー採用の決め手となった5つの評価ポイント

では、どうやってゼロトラストの仕組みを実現するか。これを支えるクラウドセキュリティプラットフォームとしてNTTデータが採用したのがゼットスケーラーである。選定のポイントとして、橋本氏と青木氏が挙げるのは次の5点だ。

1点目は、IT管理の合理化ができること。最終的にグローバル約14万人の従業員が共通で利用する基盤となるため、運用負担を最小限に抑える必要がある。

2点目は、クラウドサービス利用や社内ネットワークへのリモートアクセスに対する制度を改善し、利便性を向上できること。ルールによる縛りを軽減しつつ、従業員が働く場所に関係なく、安全かつ最適なパフォーマンスでクラウドサービスを利用できる環境を実現する。

3点目は、インターネット接続の可視性の向上。自宅や外出先などからインターネット回線を経由して直接Webサイトやクラウドサービスにアクセスする際に、トラフィックをチェックして必要に応じた制御を行う。httpsやSSLで暗号化されている通信についても、中身を検査して安全性を確認する必要がある。

4点目は、スケーラビリティ。今後もさまざまな事業でクラウドサービスの利用が進んでいくと予想されるが、自社内のインフラ設備を増強することなく、トラフィックの増加に柔軟に対応していくことができる。

5点目は、将来性。サイバー脅威はますます悪質化・巧妙化し、一方でゼロトラストのセキュリティ対策も絶え間ない進化を続けているため、最新のテクノロジートレンドを柔軟に取り込んでいけるプラットフォームである必要がある。

上記のような観点に基づいて、NTTデータはPoC(実証実験)を実施。すべての項目について確証を得られたことから、2021年にクラウド上のゲートウェイセキュリティ機能であるZscaler Internet Access(ZIA)ならびにリモートアクセス機能のZscaler Private Access(ZPA)を正式導入した。

技術革新統括本部での先行導入を経てグローバル展開へ

2021年11月現在、ゼットスケラーはNTTデータ本社の技術革新統括本部において先行利用が行われている。

ゼットスケラーによるインターネットアクセスの可視化・制御を中心として、従業員が利用しているWindowsやMac、スマートフォンなどのデバイスがマルウェアに感染していないか検知および対策を行うEDR(Endpoint Detection and Response)、さまざまなセキュリティ対策製品から出力される膨大なログを一元的に集約して分析するSIEM(Security Information and Event Management)といったソリューションも導入され、包括的なセキュリティ対策の仕組みが整備されている。

「私たちはこの一連の取り組みの成果として、従来のルールに依存した管理から脱却し、システムによる管理に切り替えることで、すべての従業員がクラウドサービスを安全かつ迅速、そして積極的に利用できる環境を構築することができました」と橋本氏。

続けて青木氏も「クラウドサービスを利用したアクセスログもゼットスケラー側で取得・保存されているため、従業員の問題ある行動も可視化して分析することが可能です。これにより非常に強力なグローバルセキュリティガバナンスを実現することができました」と語る。

こうした成果を受けてNTTデータでは、このセキュリティ対策の仕組みをいよいよグローバル全域に展開していく計画だ。また自らの取り組みを「ゼロトラストのショーケース」とも位置づけており、社外の幅広い企業に向けても積極的な情報発信を行っていく考えだ。



ゼットスケラーについて

2008年創業のゼットスケラー社は、クラウドへのアプリケーションの移行とクラウド環境でのセキュリティニーズの解決を推進する、シンプルでありながら強力なコンセプトを採用しています。ゼットスケラーは現在、世界中の数千の企業や組織のクラウド型運用へのトランスフォーメーションを支援しています。

